

修士論文(要旨)

2023年1月

中国高齢者における孫との関係が主観的幸福感に与える影響

指導 杉澤 秀博 教授

国際学研究科

国際学専攻

老年学学位プログラム

221J5004

顧悦馨

Master's Thesis (Abstract)
January 2023

The impact of relationships with grandchildren on the subjective well-being
among older adults of China

YueXin Gu

221J5004

Master of Arts Program in Gerontology

Master's Program in International Studies

International Graduate School of Advanced Studies

J.F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Hidehiro Sugisawa

目次

第 1 章 はじめに	1
第 2 章 研究方法.....	3
1. 研究対象と調査方法.....	3
2. 分析項目	3
3. 分析方法	5
4. 倫理的配慮	5
第 3 章 結果	5
1. 対象者の属性	5
2. 重回帰分析の結果	5
第 4 章 考察	5

参考文献

資料

第1章 はじめに

中国における高齢化の進展は著しく、65歳以上人口の総人口に占める割合は2021年には18.7%になった。高齢者の主観的幸福とそれに影響する要因を研究することは、高齢者の生活の質を高めるための方策を考える上で重要である。高齢者が家族と取り結ぶ関係に着目した場合、親子という二世帯だけでなく、三世帯間関係、つまり高齢者と孫との関係も重要であるといわれている。従来の研究では、孫との関係を、空間面では物理的距離、行動面では交流頻度と社会的支援、感情面では親密度という指標を用いて、高齢者の主観的幸福に与える影響が分析されてきた。

しかし、孫との関係が高齢者の主観的幸福に与える影響に関する研究については、次のような課題が残されている。第1に、孫との関係性の各側面である空間面、行動面、感情面、それぞれ単独の側面から主観的幸福への影響を評価した研究が多く、各側面を同時に測定し、いずれの側面か主観的幸福に強く影響しているかを明らかにした研究は少ない。第2には、空間面、行動面、感情面の関係をモデル化し、主観的幸福への影響を分析した研究はない。第3には、従来の研究では、孫の年齢を考慮せずに孫との関係性が主観的幸福に与える影響を分析している。

そこで、本研究では、孫との関係が高齢者の主観的幸福に及ぼす影響について、以下の2つ課題を設定し分析する。第1には、空間面、行動面、感情面からみた孫との関係のいずれが主観的幸福に強く影響しているかを分析する。第2には、孫との交流頻度や孫との居住距離の主観的幸福への影響が孫との親密度と孫との支援関係を媒介としているか否かを分析する。

第2章 研究方法

1. 研究対象と調査方法

中国大連市の鴻韋社区に居住し、高校生以上(15歳以上)の孫がいる高齢者200人を対象とした。居民委員会の住民名簿を利用し、15歳以上で孫のいる人を抽出した。孫が一人で15歳以上の人を除き、孫が複数いる人、孫が一人いるが年齢のわからない人に対しては、ウィーチャットで調査依頼文を送付し、最も親しい関係を持つ孫の年齢を電話で尋ね、研究対象になるか否かを確認した。以上のような方法で200名に達するまで抽出した。200人の高齢者に対してウェチャットを通して調査依頼文を送付した。その後、研究者が対象者の自宅を訪問し、調査を承諾してくれた人に対して自記式調査票を配布した。回答済の調査票は、再度対象者自宅を訪問し回収した。調査期間は2022年10月の1ヶ月であった。

2. 分析項目

独立変数としては、①孫との居住距離、②孫との交流頻度、④孫との支援の授受、③孫との親密さ、を設定した。従属変数として、主観的幸福、調整変数としては、①年齢、②性別、③健康状態、④社会活動、⑤子どもとの関係の良否、⑥社会経済階層、を設定した。

3.分析方法

以下の2つの重回帰分析を行った。第1は、孫との関係の各指標が主観的幸福に与える独自効果を分析するため、従属変数に主観的幸福を、独立変数に孫との居住距離、孫と交流の頻度、孫との支援の授受、親密感、調整変数を投入し、重回帰分析を行った。第2は、孫との交流頻度や孫との居住距離の主観的幸福への影響が孫との親密度と孫との支援関係を媒介としているか否かを分析するため、まずは、従属変数に主観的幸福を、独立変数に孫との居住距離、孫と交流の頻度、調整変数を投入し、それぞれの指標の主観的幸福に対する効果を分析した。次いで、孫との居住距離、孫との交流頻度が主観的幸福に有意な効果がみられた場合には、その効果を親密感と社会的支援が媒介する効果があるか否かを、媒介分析を用いて分析した。

4.倫理的配慮

本研究は、桜美林大学研究倫理委員会にて承認済み(承認番号 22025)である。

第3章 結果

本研究では、孫への支援の提供のみが主観的幸福に有意な効果があり、居住距離、交流頻度、孫からの支援の受領、親密度については主観的幸福に有意な効果がなかった。媒介分析については、居住距離と交流頻度のいずれも主観的幸福に有意な効果がなかったことから、行わなかった。

第4章 考察

本研究では、孫との空間面と行動面での関係の評価指標である居住距離と交流頻度については、主観的幸福に有意な効果がなかった。近年の中国の高齢者を対象とした研究では、都市部の高齢者は居住形態において子供や孫と同居しないことを選択する傾向が強く、さらに同居している人よりも幸福度が高いことが明らかにされている。さらに、孫との同居が主観的幸福にマイナスに作用するという研究が最近発表されており、その理由として、高齢者が孫と同居や近くに住んでいると、子供世代との育児観念の差異から世代間の衝突が生まれ、そのことが高齢者の主観的幸福にマイナスな影響していると指摘されている。以上の既存研究の結果は、孫との居住距離や交流頻度が高齢者の主観的幸福に影響しなかったという本研究の結果を支持しており、近年の中国では、孫との居住距離や交流頻度は高齢者の主観的幸福に有意な効果がないということを示唆しているものと考えられる。

孫からの支援の受領については、主観的幸福に有意な効果がなかった。これまでの研究では、高齢者は孫から支援を提供させるよりも、子供から支援の受領が期待している。このような期待感の乏しさが孫からの支援の受領を受ける可能性があったとしても、そのことが主観的幸福感

に影響しない理由と思われる。孫との親密度についても、主観的幸福感に有意な効果がなかった。その理由は次のように解釈できる。親密度については、孫への提供の支援や支援の受領と相関が極めて高い(それぞれ $r=.628$ 、 $r=.757$)。親密度が高いから支援の授受を行うのか、支援の授受の結果として親密度が高くなるか、その因果関係は別にして、要因として支援の提供と受領が加えられた結果として親密度の効果が低くなった可能性が高い。現に支援の受領と提供を除いて、親密度の主観的幸福感への効果を分析した結果、 $P<.05$ で有意な効果が観察された。

本研究の限界については、第1に、本研究の対象者が都市住民で、学歴が多くの人が高校以上であること、また、退職年金があり、健康状態が良いという点を踏まえておく必要がある。農村地域の高齢者を対象とした研究では、本研究とは異なる結果となる可能性がある。第2は、本研究では横断研究であるため、孫との関係と高齢者の主観的幸福との因果関係が特定できません。縦断研究によって因果関係を特定することが必要である。

参考文献

- 1) 中国人口統計局 (2021) http://www.gov.cn/fuwu/2022-10/26/content_5721786.htm (2022.12.5 アクセス).
- 2) 袁正・李玲 (2017) 婚姻与幸福感: 基于 WVS 的中国微观数据《中国经济问题》, (1): 26-37.
- 3) 古谷野亘 (2002) 幸福な老いの研究: 研究の歴史と残された課題. 生きがい研究, (8): 48-70.
- 4) 瞿小敏 (2016) 社会支持对老年人生活满意度的影响机制——基于躯体健康、心理健康的中介效应分析[J]. 人口学刊, (2): 49-60.
- 5) 张文娟・李树茁 (2014) 代际支持对高龄老人身心健康状况的影响研究[J]. 中国人口科学, (S1): 39-44, 176.
- 6) 崔焯・靳小怡 (2016) 家庭代际关系对农村随迁父母心理福利的影响探析[J]. 中国农村经济, (06): 15-29.
- 7) 宮田正子・大川一郎・土田宣明 (2013) 孫の存在の意味—祖父母と孫の心理的關係からの分析. 高齢者のケアと行動科学, 18: 61-73.
- 8) 杨善华・贺常梅 (2004) 责任伦理与城市居民的家庭养老——以‘北京市老年人需求调查’为例, 北京大学学报(哲学社会科学版), (1): 71-84.
- 9) 康嵐 (2012) 反馈模式的变迁: 转型期城市亲子关系研究 上海社会科学院出版社.
- 10) Ko P. C. and K. Hank, (2014) Grandparents Caring for Grandchildren in China and Korea: Findings from CHARLS and KLoSA, Journals of Gerontology, 69(4): 646-651.
- 11) 内田勇人・藤賀彩花・江口善章・西垣利男・山本存・矢野真理 (2015) 孫との關係が祖父母の精神的健康度に及ぼす影響, 日本世代間交流学会誌, 5 (1): 29-36.
- 12) 橋本翼 (2012) 高齢者の心理的, 精神的健康状態における孫の及ぼす影響—孫—祖父母關係評価尺度を用いた検討—, 山形保健医療研究, 15: 21-32.
- 13) Kivnick, H. Q. (1983) Dimensions of grandparenthood meaning: Ductive conceptualization and empirical derivation. Journal and Personality and Social Psychology, 44: 1065-1068.
- 14) 伊藤忠弘 (2012) 自己・他者志向的動機への態度と諸変数の関連. 学習院大学東洋文化研究調査研究報告: 達成動機つけるにおける重要な他者の果たす役割—日本と韓国の比較研究—, 27-36.
- 15) 山崎美佐子・角間陽子・草野篤子 (2004) 異世代間におけるネットワークの可能性—祖父母と孫の交流關係から— 信州大学教育学部紀要, (112): 99-110.
- 16) 森田久美子・青木利江子・小林美奈子・山本晴美・呂 曉衛・永嶺仁美・佐々木明子 (2017) 「全国の学童 保育における高齢者との世代間交流の実施状況と実施に関わる要因」『日本世代間交流学会誌』, 6(1): 27-36.

- 17) 久保恭子・田村毅 (2011) 祖父母力を活用した育児支援のあり方の検討, 東京学芸大学紀要総合教育科学系, 62(2):257-261.
- 18) 中原純 (2011) 前期高齢者の祖父母役割と主観的 well-being の関係, 心理学研究, 82(2):158-166.
- 19) 劉佳 (2015) 中国における一人っ子家族の親子関係に関する研究 明治大学大学院 政治経済学研究科.
- 20) 張露丹 (2021) 孫とのサポート授受が高齢者の生活満足度に与える影響—中国山東省の都市部に居住する高齢者を対象として— 櫻美林大学老年学研究科修士論文.
- 21) 吴培材 (2018) 照料孫子女对城乡中老年人身心健康的影响——基于 CHARLS 数据的实证研究, 中国农村观察, 4.
- 22) 聂建亮・曹健雪 (2020) 多孙会多福吗?—孫子女对农村老人主观幸福感影响的实证研究[J]. 武汉会科学版, (3):39-46.
- 23) 李芬・风笑天 (2016) 照料“第二个”孫子女? —城市老人的照顾意愿及其影响因素研究[J]. 人口与发展, (4):87-96.
- 24) 靳小怡・刘妍璐 (2017) 照料孫子女对老年人生活满意度的影响——基于流动老人和非流动老人的研究[J]. 东南大学学报(哲学社会科学版), 19(2):119-129, 148.
- 25) 中村・浜・後藤 (2007) 孫との関係に着目した高齢者の主観的幸福感に関する研究 武蔵工業大学 環境情報学部 情報メディアセンタージャージャーナル, 48.
- 26) 陳俊霞 (2012) 中国の都市部における乳児期の孫養育への参加が祖父母の主観的幸福感に与える影響に関する研究 東京大学医学系研究科博士論文.
- 27) 關戸啓子 (2001) 祖父母との人間関係が大学生の自己受容と対人態度に及ぼす影響 川崎医療福祉学会誌, (1):49-55.
- 28) Bengtson, Vern, L, et al. (1991) Intergenerational Solidarity in Aging Families: An Example of Formal Theory Construction[J]. Journal of Marriage & the Family.
- 29) 杨菊华・李路路 (2009) 代际互动与家庭凝聚力——东亚国家和地区比较研究[J]. 社会学研究, (3).
- 30) 杉井順子 (2006) 祖父母と孫との世代間関係: 孫の年齢による関係性の変化 奈良教育大学紀要(人文社会), 55:177-189.
- 31) 柴田 (2016) 孫から見た祖父母—祖父母との交流と祖父母機能— 大分県立芸術文化短期大学研究紀要 第 53 卷.
- 32) 島貫秀樹・崎原盛造・芳賀博他 (2003) 沖縄農村地域の高齢者における交流頻度と生活満足度および精神的健康との関連; IADL レベルによる比較. 民族衛生, 60(6):195-204.
- 33) Aron, A., Aron, E. N., & Smollan, D (1992) Inclusion of other in the self scale and the structure of interpersonal closeness. Journal of Personality and Social Psychology, 63:596-612.

- 34) 福岡欣治 (1999) 友人関係におけるソーシャル・サポートの入手—提供の互惠性と感情状態—知覚されたサポートと実際のサポート授受の観点から— 静岡県立大学短期大学部研究紀要 13(1).
- 35) 瞿小敏 (2016) 社会支持对老年人生活满意度的影响机制——基于躯体健康、心理健康的中介效应分析[J]. 人口学刊, (2):49-60.
- 36) 井上彩乃・田高悦子・白谷佳恵・有本梓・伊藤絵梨子・大河内彩 (2016) 地域在住高齢者における社会活動尺度の開発と信頼性・妥当性の検討, 日本地域看護学会誌, 19(2):4-11.
- 37) 简才永・植凤英 (2017) 亲子关系对成年初期祖孙关系的影响[J]. 六盘水师范学院学报, 29(1):52—56.
- 38) 胡洪曙・普元平 (2012) 收入不平等、健康与老年人主观幸福感—来自中国老龄化背景下的经验证据川.中国软科学, (11):41 — 56.
- 39) 王蓉榕 (2019) 养老方式对城市老年人主观幸福感影响的研究——基于健康的中介效应分析 浙江财经大学修士論文.
- 40) 张瑞・李晓虹・支航钰 (2021) 老年人主观幸福感现状及其影响因素研究, 健康教育与健康促进, 16(2).
- 41) 宋璐・李树茁 (2010) 照料留守孙子女对农村老年人养老支持的影响研究, 人口学刊,2.